


第 271 回 都市懇サロン レポート	「植物とまち」		
講 師	株式会社folk代表取締役 一般社団法人シモキタ園藝部共同代表理事 一般社団法人ソーシャルグリーンデザイン協 会理事 三島 由樹 氏	開催日	令和 5 年 6 月 30 日(火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	1979 年 東京生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業 ハーバード大学大学院デザインスクール・ランドスケープア ーキテクチャー学科修了 (MLA) マイケル・ヴァン・ヴァルケンバーグ・アソシエーツ (MVVA) ニューヨークオフィス、東京大学大学院工学系研究科都市工 学専攻助教の職を経て、2015 年 株式会社folkを設立。 全国の様々な地域で場や commons のリサーチ・デザイン・運 営を行う。 季刊「庭 NIWA」にて「庭と園藝-社会と commons のデザイン 論-」を連載中。		
お 話 の 概 要	<p>●シモキタ園藝部の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下北線路街の計画にあたり、2018 年にランドスケープのグランドデザインを担当。 ・地域の人、まちに思い入れがある人が、まちの緑を育み使っていくことで維持管理をするという考えの元、ワークショップを 4 回重ねた上で、20 人により 2020 年春に任意団体としてシモキタ園藝部発足。 ・1 年活動を続けた上で、継続できる感触を得るとともに、小田急より管理委託を受注することも考慮し、2021 年に一般社団法人化。現在は 178 名。 <p>●シモキタ園藝部の活動</p> <p>環境を育てる：緑の手入れ、コンポスト、拠点整備 緑を活かす：養蜂、ちゃや、古樹屋 魅力や知恵を共有する：PR・製作、ワークショップ、図書室、園藝学校</p> <p>●園藝部の目指す組織形態</p> <p>皆が出資・運営・労働が一体でもフラットな形態であるワーカーズコープが園藝部にマッチする。今は一般社団だが、ワーカーズコープが法制度化したら移行したい。</p>		
意 見 交 換 の 概 要	<p>●地域の人が集まり、若い人も参加してくる理由は。</p> <p>⇒構成員一人一人の考え方を大事にし、組織としての主義主張をもたず、常にオープンでいることが、結果的に若い人、様々世代の人を集めている。</p> <p>●全国的に高齢化等による担い手不足が課題だが対策はあるか。</p> <p>⇒人を呼ぶことを目的とせず、組織の中の人々が心から楽しみ、外の人にオープンな環境をつくり、共に楽しみたい人に参加してもらうことが重要。</p> <p>●今後の緑化のニーズとして、どのようなものが、はやってきそうか。</p> <p>⇒装飾性等の見た目を重視するのではなく、人間や他の生物が生きるために使われる緑に価値が見いだされていくと思う。</p> <p>●シモキタ園藝部の取組みは、どのような社会課題の解決につながりそうか。</p> <p>⇒社会課題は常に変化するもので、植物に人間が密接に関わっていくことで、社会課題に向きあえるベースをつくることを考えている。</p>		
記 録 者 の ひ と こ と	<p>緑の管理は、担い手や資金面で問題となるケースが多いが、地域の人を巻き込みながら、自ら楽しみ緑を使い・育てることを管理につなげていくという考え方は、いずれの場所でも活用が考えられる方法であり、大変参考になった。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 森川 禎二郎》</p>		